

(仮称)地域活性化発信交流拠点基本計画(案)に対する町の考え方について

町の考え方を下記の通りまとめましたのでお知らせします。

パブリック・コメント案件：（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画（案）		
担当課：道路交通課	メールアドレス：douro@town.saitama-miyoshi.lg.jp	
提出された意見の件数	26件	
対 応 状 況		
提出された意見等	対応方針	町の考え方
P.1 はじめに 第9章（仮称）地域活性化発信交流拠点の機能分担の検討に関する記載が無いので、わかるようにしてください。 P.7 1.3.2 検討の流れ 第9章（仮称）地域活性化発信交流拠点の機能分担の検討に関する記載が無いので、わかるようにしてください。 (3)P.11 2.2.人口 参照した国勢調査の発行年度を記載してください。 図2-5 地区別人口の整理の凡例を記載してください。 説明文 みよし地区とは、どこのことでしょうか。 P.12 2.3. 商工業 参照した経済センサスの発行年度を記載してください。 P.27 アンケート (3) 周辺住民アンケート調査 12件 (4) 農業者アンケート調査 10件 (5) 子育て世代アンケート調査 202件 は少ないと思います。特に(3) 周辺住民アンケート調査、(5) 子育て世代アンケート調査はwebで実施したにもかかわらず、広く住民から声を吸い上げられていません。実施方法に問題があったと思います。この件数の妥当性について、町はどういう考えでしょうか。 このアンケート結果で利用者のニーズをまとめるのは、拙速ではないでしょうか。その点も、町の見解を教えてください。 p.31 表3-1 利用ニーズ調査により得られた主な意見 温浴施設を求めているという意見が散見されますが、三芳町は温泉で有名ではなく、足湯やシャワーを求めてくるわけでは無いと思います。温浴施設が設置されれば利用者はいるとおもいますが、公金を使うと考えれば、この温浴施設は無駄だと思います。町の考えを教えてください。 p.42 (4) 情報発信機能	原案のとおりとします。 ご意見のとおり、修正いたします。 原案のとおりとします。	第9章でお示ししている機能分担については、令和7年2月に答申がなされたことから検討を行ったものであるため、改めて9.1 背景と目的に記載しております。 ご指摘のとおり、修正いたします。 P.11 図2-5 ・国勢調査実施年度にあわせてグラフを作成しております。 ・凡例を追記します。 P.11 本文 ・みよし台地区 P.12 2.3. 図2-7、図2-8、図2-9 ・出典：経済センサス（令和3年（2021年）） （1）Web アンケート調査において広く住民から、（2）～（5）の調査では特定の対象者からの意見を求める方法を取りました。アンケートについては、限られた期間と方法で行ったものでありますが、いずれも住民意見であり、ニーズの聴取方法としては問題ないと考えております。今回のパブリック・コメントだけでなく、今後も住民のみなさんからの意見を頂戴する機会を予定しておりますので、引き続き意見を取り入れながら整備計画の検討を進めていきたいと考えております。 温浴施設については、レクリエーション機能の一つとして捉えております。収益性、維持管理等様々な課題を踏まえて慎重に検討を進めてまいります。 情報発信機能については、子どもか

少子高齢化で、高齢者が多くなります。大阪万博で問題となった過度なデジタル化に進むのではなく、紙媒体や対人による案内での丁寧な情報発信を心がけてください。

p.44 (7) 休憩機能

車を使い、車中泊をする人が増えています。交流拠点利用者や近隣住民の迷惑にならないよう、利用者への配慮、騒音対策は考えていますか。

p.46 (9) 交通結節機能

施設イメージに「公共交通と連携し観光周遊をするための高速バス・路線バス停留所やサイクルステーション」とありますが、高速バスを誘致する計画がありますか

「新たなモビリティを体験する場」とあります。

都内で、特定小型原動機付自転車（電動キックスクーター）の設置、使用が問題となっていますが、設置する設備（自転車等）の種類について町の考えを記載してください。

P.48 (12) 導入機能・導入施設のまとめ
調整池の設置が計画されています。P.59のイラストの説明ではわかりにくいので、設置理由と役割、上部利用の説明をお願いします。

P.68 第7章 事業手法の検討

一般住民にわかるよう、専門用語をなるべく使わず、平易な言葉を使い、丁寧な説明をしてください。

P.73 7.5. VFM の算定

一般住民にわかるよう、専門用語をなるべく使わず、平易な言葉を使い、丁寧な説明をしてください。

住民に対し、どんなメリットがあるのか、詳しく説明してください

PSC に対して、PFI-LCC が安くなるようにグラフは書いていますが、本当にそうでしょうか。維持管理費、利益・配当等、リスク管理費が漸増し、PSC よりコスト高になる可能性がありませんか。

内閣府「簡易な検討の計算表」は、一般住民にとっては簡易ではないので、計算表を公表し、全ての変数を公開してください。

P.74 8.1. 今後のスケジュール

整備計画の役割を説明してください。「基本計画」や有識者等からの意見を基に、計画の具現化を図るため、諸計画と相互に連携・調整された基盤整備計画および建築物基本構想などを策定するもの。とありますが、基本設計でまかなえない理由は何ですか。

ら高齢者まで年齢に関わらず利用者の利便性に寄与するものとなるよう今後の検討を進めてまいります。

休憩機能や交通結節機能については、ご指摘のとおり考慮・想定すべき事項があると認識しております。導入する施設や設備は、今後、いただいたご意見を参考に検討を進めてまいります。

調整池は、拠点施設の敷地内の雨水を処理するために必要な設備です。調整池の利用については、土地の有効活用を含め、今後、具体的に検討をしてまいります。

事業手法については、専門用語が多く、平易な言葉で言い換えた場合に広く意味を捉えられることのないよう注意し、今後、丁寧に説明してまいります。

VFM は、町が単独で本事業を実施した場合（PSC）と民間活力を導入して実施した場合（PFI 等）を想定して比較し、民間活力を導入した場合、従来の町が単独で実施した場合に対して、公共支出が抑えられるかどうかを表したものです。

整備計画の役割は、基本計画において示した機能を設計に必要な各施設の広さや高さ、収容人数等の各条件として具体的に整理するものです。具体的には、地形を考慮した上下水道、道路などのインフラ設備の整備計画や建物における諸室の要求水準の設定など、基本設計を行うための条件整理を行い

p.75 8.2. 概算事業費

本事業の概算事業費は、工事費、道路整備費を含め約 45～50 億円（用地買収費除く）とありますが、非常に高額です。算定した過程を、内訳も含め教えてください。直接工事費か、経費を含めた工事金額なのか、物価上昇を含めているのか教えてください。

P.87 9.4. 基本方針および導入機能

本章では、上富地域との分担整備を検討しています。上富小学校が統廃合される答申が令和 6 年度末に発出されています。第 6 次総合計画には上富地域拠点整備に関し言及はありますが、分担整備に関し、住民の意見を反映し計画を策定したのでしょうか。

2025 上富地域拠点整備基本方針を下敷きに、検討したと思います。しかし、この方針はインターネット上で公開されていません。住民が閲覧できるよう関係部局と調整してください。

「温浴施設を備えた宿泊施設を整備することで、農業体験や世界農業遺産を目的に訪れた観光客や視察団体などが泊まることができるとともに、災害発生時においても宿泊可能な避難所として活用できるなど、機能の充実が図られる施設となることが考えられます」とありますが、なぜ宿泊施設が公設なのでしょう。公金の設置が必要だと考える理由を教えてください。

「2025 上富地域拠点整備基本方針」は、P.11 に「保存・活用を充実させるための連携が求められる。また、上富小学校では、三富地割遺跡を見学する施設として利用されているため、来訪者への機能充実が求められる。」とあるので、見学者に対しての施設は必要だと思います。しかし、温浴施設を備えた宿泊施設を公金で整備するのは過剰であり、規制緩和を行い、民間事業者の建設・運営（民設民営）をするべきだと思います。

P.99 9.5. 概算事業費

上富小学校を活用した三芳スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点の概算事業費は、工事費、道路整備費を含め三芳スマート IC 隣接拠点は約 23～25 億円、上富地域拠点(上富小学校のみ)は約 5 億円となり、あわせて約 28～30 億円と想定します。とありますが、なぜ、「p.75 8.2. 概算事業費」の金額から、最大 20 億円も低減できるのでしょうか。算定した過程を、内訳も含め教えてください。直接工事費か、経費を含めた工事金額なのか、物価上昇を含めているのか教えてください。

ます。

概算事業費については、直接工事費ではなく、諸経費と消費税を見込んだ最近の同等施設を参考にした額をお示ししております。

分担整備については、(仮称)地域活性化発信交流拠点の検討を円滑に行うため、1つの案としてお示ししております。今後、整備計画の検討において具体的にお示しできる段階になりましたらお知らせいたします。

2025 上富地域拠点整備基本方針では、主に農業センターの耐震化や老朽化に対する検討の方向性を示し、平成 28 年度の耐震化、一部リノベーションが行われ、一定の役割を終えたものとなりますので、現在は公開しておりません。

宿泊施設については、収益性、維持管理等様々な課題を踏まえて慎重に検討を進めてまいります。

概算事業費については、直接工事費ではなく、諸経費と消費税を見込んだ額をお示ししております。その数字の根拠は最近の同等施設を参考にしたものです。

三芳スマート IC 車種拡大に反対を表明してきました。 （仮称）三芳バザール賑わい公園構想パブリック・コメントでは反対意見が多数ありました。 学校再編等審議会で答申は提出されましたが「これは最終決定ではない。あくまでも通過点なので審議会のせいにはしないで下さい。決めるのは町と議会です」と述べています。まだ議会での決定がないうちに、上富小学校を廃校にし、その跡地に「道の駅」を造る計画（案）を示すのは、民主主義に反する行為です。	原案のとおりとします。	（仮称）地域活性化発信交流拠点については、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。
P.1 1.1 背景と目的 情報発信機能や多業種の活力創生よりも幸せなまちづくりを述べるなら福祉施策を優先すべきで、税金支出の（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画はやめるべきです。 P.42 （4）情報発信機能に多額の税金投入を危惧する。 P.69 7.2 官民連携事業の目的 7.3 官民連携事業の代表手法 住民の税金で建物等造りますが、住民の還元はほばないに等しいと思う。PFI 方式では、大手企業のもうけに通じるのでやめるべきです。町民の意見でない同計画は民主主義に反する強引なやり方だ。 P.86 9.3 拠点の考え方 「上富地域拠点は地域の教育、歴史、文化、防災等の重要な拠点として位置づけられている」とあります。それならば上富小学校を残し、緑、畑、自然を残すことであり、同計画の中止を強く求めます。 「道の駅」を2ヶ所に造るよりは上富小学校を残す方が地域住民に多く利用され喜ばれるので学校は残すべきです。多額の税金支出で「道の駅」建設を住民が望むのか、それとも生活支援策を望むのか町民に問うべきです。	原案のとおりとします。	町の施策については総合的な視点での判断となります。（仮称）地域活性化発信交流拠点についても、いただいたご意見を参考に、情報発信機能とあわせて検討を進めてまいります。 事業費については、今後の整備手法の検討において町の支出の低減を追求し、具体的に検討を進めてまいります。
P.59 配置計画図 配置計画図においてシンボル樹林が調整池の管理道路側に設置されているが、地域振興施設側に設置したほうが施設利用者がアクセスしやすいのではないのでしょうか。	原案のとおりとします。	配置計画については、一体整備案・分担整備案を含めてアクセス性を考慮し、検討を進めてまいります。
（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画（案）に反対します。市民の税金は市民のためにあるのであって、町が好き放題するためにあるものではありません。 計画案に「今後、人口減少、少子高齢化や農業振興等の課題に対応し、持続可能なまちづくりを目指す目的から、町では『児童の権利に関する条約』等の理念に基づき、令和6年12月に『子どもの権利に関する条約』を制定しました。その上で、ユニセフの『子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）』に取り組みます。これは、公的な政策や事業の決	原案のとおりとします。	町の施策については総合的な視点での判断となります。 （仮称）地域活性化発信交流拠点は、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 （仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地

定において、大人中心の発想や基準で進められてきたまちづくりに、子どもの声やニーズなど子どもの視点を加え、“まちづくり”をいろいろな人の立場から発想するしくみづくりによって、誰にでもやさしいまちとなる取り組みです。」(第1章はじめに 1.1. 背景と目的)とあります。 まず、「子どもにやさしいまちづくり」は小学校を統廃合した先にあるとは思えません。それは、小学校の維持や教員の待遇改善の先にこそあるのではありませんか。 次に、「農業振興」のためと言って箱物で農地を潰すのでは本末転倒です。農家が農業だけで十分な暮らしを続けていけるということが農業振興にとって大事であると考えます。 さらに、「大人中心の発想や基準で進められてきたまちづくり」とありますが、まさにこの計画そのものだと感じます。「いろいろな人の立場から発想するしくみづくり」についても、この計画案の説明を計画予定地の周辺住民にしか行っていない点や、パブリックコメントの募集期間が1ヶ月と短い点などからも疎かにしていると感じます。 最後に、「持続可能なまちづくり」は三芳町に住む全ての市民との対話の先にあります。町の意向のみで成り立つものではありません。 以上の点などから私はこの計画案に反対します。		域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 農業振興については、(仮称)地域活性化発信交流拠点のコンセプトのとおり、「地域活性化」「発信」「交流」の3つのキーワードを軸に、利用者のニーズを取りこみながら、「三芳の食と農」など町の代表的な魅力の発信を通じて、来訪者との交流や地域の活力の創造に結びつくよう検討を進めてまいります。 住民アンケートや今回のパブリック・コメントだけでなく、今後も意見を頂戴する機会を予定しておりますので、引き続きご意見を取り入れながら整備計画の検討を進めていきたいと考えております。
地域活性化発信交流拠点 計画中止のお願い 基本計画を読ませていただきました。現在、三芳 PA や、今昔村等があり、地域活性化に充分な役割を果たしていると思います。さらに多額の費用を使って新たな拠点を整備する必要を全く感じません。学校給食費無償化や循環バスの整備など、他のことに税金を使っていたきたいです。よろしくお願い致します。	原案のとおりとします。	町の施策については総合的な視点での判断となります。 (仮称)地域活性化発信交流拠点は、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 (仮称)地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 事業費については、今後の整備手法の検討において町の支出の低減を追求し、具体的に検討を進めてまいります。
三芳町の活性化という名目で、何か施設を建て、そこで人が交流できるというものは、町の財政上必要だが、上富小学校を潰すことは反対です。さらに PA の敷地を拡大しそこに建設するというに対しても反対です。小学校に関しては、現在の生徒数の減少とい	原案のとおりとします。	いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 ご意見のとおり、町の施策については三芳 PA の存在も視野に入れた総合的な視点での判断となります。

う面にだけ囚われてはいけないと思います。今後その地域のその小学校に入校したい子どもたちが居場所をなくしてしまう可能性もあります。今後、若者の職業としての農家需要は上がると考えています。そのため、農家周辺の家庭も一定築かれるでしょう。小学校は潰すことはできますが、再び建てることは難しいです。 さらに、すでに三芳 PA があるなら限られたそのスペースでの利用を考えてみてもいいと考えます。その敷地内でショッピングモールを建てるとか。その案に関しても住民も協力して考えます。 ただ、税金の使い道としてはある程度住民に還元のあるものにしていただきたいと思います。税金を使って活性化を進めるのであれば、ふるさと納税であるならばはなしはべつですが。		(仮称) 地域活性化発信交流拠点は、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 (仮称) 地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。
全国的に道の駅や地域活性化発信交流拠点等の施設は経営難が現状です。なのでこの計画案には、反対です。 来客数、売上金額は多くても実質純利益は無く赤字経営に陥っている。赤字経営でないと言われている施設でも農産物、飲食、その他の物品販売では利益が出ず指定管理料(税金)でどうにか名目上の黒字となっている。どの道の駅や地域活性化発信交流拠点等の施設も開設前に詳細な事前調査をして、住民の期待を得て造るが失敗して自治体の負担となっている。 失敗事例 2019年9月2日、イオンモール盛岡南で産直を運営していた遠野市の第三セクター「遠野ふるさと公社」がアンテナショップである「結いの市」を2020年2月末で産直を撤退することを決めました。 開業以来13年連続の赤字。その結果、契約期間満了で撤退を決断「イオンモール盛岡南結いの市」は、地場産品の年間売上が7千万を超えていた。(岩手日報) 滋賀県長浜市「えきまちテラス長浜」は、2019年4月25日で「産直市場えきまちマルシェ」を閉店することを発表。 2017年7月オープンし、2018年4月に商品の品揃えを一新させるも、売上不振。 第三セクターの社長は、「大幅な赤字圧縮という目標が達成出来なかった」と述べており、「産直市場えきまちマルシェ」のパート従業員を全員解雇。 2003年に道の駅に登録された、飛騨市にある道の駅「飛騨古川いぶし」が、経営難などを理由に廃業し、市が国土交通省に登録の取り消しを申請する方針。2025/2/14 バブル期 バリバリ 夕張の CM を流していた夕張市。	原案のとおりとします。	(仮称) 地域活性化発信交流拠点の検討においては様々な先行事例を研究し進めていく必要があると考えます。いただいたご意見を参考に、事業収益性等を踏まえ、慎重に検討を進めてまいります。

夕張市は 2007 年に財政破たん。その原因は力を入れていた遊園地、観光産業が失敗し増大する維持費など。

およそ 3 分の 1 の道の駅が赤字経営に陥っている。最初のうちは程々の来客数 売上高あるが消費者は少しでも安い商品を求めるのでやがて売り上げが減少する。

消費者の農産物消費量はおよそ一定 消費量が 2 倍や 3 倍にならない。道の駅は農産物の販売や飲食店では利益が出ず指定管理料（税金）で存命。やがて生産者、消費者も少子化と高齢化が進行し自治体、第三セクター、民間どこが運営しても赤字運営になる。

どの自治体も今ある建物を有効活用せず、自額の資金（税金）を投入して、新しく用地を取得して建物を立てる事が失敗の原因。

農産物の販売 PR はインターネットや、ヤオコー、ベルク、などと連携すればいい。建物と用地は大きいほど維持費がかかり経年劣化時の補修改修費用も多額になる。公共施設とはいえ飲食、物販が中心なので採算性がない。

指定管理料（税金）では足りず、更に税金を投入するのは問題となる。税金の使い方として利潤追求をしない公民館などの施設であればいいが、利潤追求をする施設に赤字運営でも指定管理料（税金）継続投入することは、出店納品している事業者と運営会社だけの利益補償となり税金使用の不公平感が発生し施設で飲食、物品購入しない町民事業者の不公平感は更に大きくなる。

どの自治体も財政を支えているのは観光や道の駅などではなく、事業税固定資産税。町を活性化させる有効策は、空き店舗や空き倉庫等に優先的に企業誘致する施策をとれば低コストで税収と雇用が改善される。

そして上富小学校は義務教育なので児童数が少なくても廃校させず、町民、行政がアイデア出し合って地域活性化発信交流拠点の機能も持たせて町のシンボルにする。

（仮称）地域活性化発信交流拠点施設は造らず、廃校寸前の上富小学校を町のシンボルにすれば町が活性化する。

事例

1. 島根県津和野町にある人口 300 人の集落・左鐙（さぶみ）
この小さな集落のシンボルとなっているのが、集落の中心部にある左鐙小学校。
2. 廃校寸前の高校が“県内最高”倍率人気校に島根県・県立隠岐島前高校。

○開発について ・よほどの魅力がないと開発は失敗する。一度立ち止まり再検討が必要では ・財源、費用の根拠があいまい（土地の買収費は入っていないとある） ・国や県の補助金は望めないのでは（最近も減額が報告されている） ・上富地域拠点整備は、塩漬けになっている。県の土地の有効活用について県との協議を進めるべき	原案のとおりとします。	・概算事業費については、最近の同等施設を参考したものであり今後、詳細な検討を行っていくものになります。土地購入費については、現時点で当該土地の評価を行っておらず、また想定する土地価格が類推され、個人の財産に係る情報に繋がる可能性があるため、表記を控えております。 ・補助金や交付金については、各省庁が支援するメニューの中で活用できるものは積極的に活用していきたいと考えております。 ・2025 上富地域拠点整備基本方針では、主に農業センターの耐震化や老朽化に対する検討の方向性を示し、平成28年度の耐震化、一部リノベーションが行われ、一定の役割を終えたものとなります。
○農産物直売所について ・スペースが狭い 360 m²とあるが、よく利用する「所沢食の駅」の約 1/3 ・農産物が集まるのか心配（さつま芋は自宅で完売できると聞いている） ・下り線でスマート IC 利用者の利用は難しいのでは ・身近なスーパーなどで便利に地元野菜は手に入る ・ハムなどの加工品も高すぎ。少人数の家族は買わない		農産物直売所については、生産者・消費者双方にとって魅力的な場となるよう今後、具体的な検討を重ねてまいります。
○上富小学校の廃校について ・まだきまっていないのに無くすことを前提にしているのはおかしい ・学校はその地域の歴史・文化・教育の原点。人数だけできめるのはどうか ・子どもたちの意見も大事（上富小の子どもたちは自分たちの学校を誇りに思っている） ・若い方が増える住宅開発は（だいぶ前だが、木の宮住宅の隣に新住宅ができています） ・学区の見直しで上富小に入学を希望する方を認めては ○その他 ・スマート IC 地域拠点と上富地域拠点と分担型になると、スマート IC 地域の面積は 4.5ha から 2～2.5ha に縮小されるのですか		基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和 7 年 2 月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 分担型整備案では、スマート IC 隣接拠点の整備面積は 2～2.5ha となります。
世界農業遺産の認定地である為、開発ではなく農業を残す為に最低価格の保障などに補助金を設けて三富新田を残す努力をして欲しい。 道の駅を作り、客がどれ程入るか赤字経営になるのではないかと心配される 日常有効に活用されていくとは思えない	原案のとおりとします。	（仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 事業収益性等を踏まえ、慎重に検討を進めてまいります。

この拠点案ではアンケート結果からとして町民、地域住民は使いやすく、日常使用を望んでいると触れられていますが、日常的な利用を考えると公共交通の充実は大事なことと思います。車以外で町民がこの施設を利用する場合の移動手段はどのように計画されるのでしょうか。町民にとっては、路線バス、ライフバス、今後のワゴン型循環バスなどの、公共交通の充実と利用しやすさは必要不可欠な大事なことと思います。 藤久保地域拠点施設事業が進んでいる中で、さらに 30 億円以上の財政負担はとても心配です。社会経済情勢が大きく変化する中、住民説明会などで町民の意見を広く聞いて下さい。	原案のとおりとします。	ご意見のとおり、拠点をより多くの人に利用してもらう目的として公共交通の充実は重要であると考えております。 三芳町地域公共交通計画との連携も図りながら、今後具体的な検討を進めてまいります。 住民アンケートや今回のパブリック・コメントだけでなく、今後も意見を頂戴する機会を予定しておりますので、引き続きご意見を取り入れながら整備計画の検討を進めていきたいと考えております。
私は、町当局が、現在進めようとしている「学校統廃合」に同意できない考えを持っています。 ①「三芳町学校再編等審議会」での審議により、上富小学校と三芳小学校の統廃合が答申されました。ここでは、「児童数の減少」に伴う学校の再編が中心の議論であり、「教育・学習」にかかわる議論はなされませんでした。最も当事者であるべき、「子ども」の考えが反映されませんでした。 ②住民説明会では、上富小学校と三芳小学校の統廃合を実施していくうえで、子どもたちの意見を聞くとの説明がありましたが、「統廃合」が前提の意見交換になるでしょう。 ③そもそも、地域の「学校文化」の中心である上富小学校と三芳小学校の統廃合が必要なのかを子どもたちに問うべきだと思います。 ④まだ、決まってもいない上富小学校と三芳小学校の統廃合後の跡地利用について計画案に出てくることへの強い違和感がありますが。基本計画案」だから仕方がないのでしょうか。 ・・・百歩譲って・・・ ⑤上富小学校の「跡地」は、「三富新田開拓」「地割」の中の「学校」として、地域にねざした教育・学習活動を展開している現状を高く評価し、「商業・観光」施設ではなく、「教育・文化・学習」施設として活かすのがいいと思います。	原案のとおりとします。	基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和 7 年 2 月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 ⑤の跡地利用に関するご意見に関しましても、今後の検討において、参考にさせていただければと思います。
道の駅は必要ありません。パサール側の駐車場を広くしてください。	原案のとおりとします。	（仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 パサール側の駐車場に関しましては、NEXCO 東日本の施設となるため、要望があったことをお伝えさせていただきました。

企画名：「森のラジオ局～50 年後へつなぐ声と森のタイムカプセル～」 ■ 背景と目的 三芳町は、持続可能な農業と里山文化が高く評価され「世界農業遺産」に認定され、また自然との調和を重視する「ガーデンツーリズム」の拠点としても知られています。こうした自然資源や文化的価値を、次世代や来訪者へと繋いでいくために、体験型・発型の交流拠点を整備することが望まれます。 ■ 提案概要 本提案では、「森の中のラジオスタジオ（森のラジオ局）」を中心に据え、以下のような機能を持つ複合型の発言・交流施設を構築します。 ■ 主な施設・機能 ① 森のラジオスタジオ（森の放送局） ・森の中に木のほころのように佇む小型スタジオ ・音を遮断する「霧のカーテン」でディズニールンドのような非日常空間を演出 ・地域の農家、職人、こどもたちによるラジオ番組を収録・配信 ・災害時には「防災放送ステーション」としても機能 ② 子どもの職業体験ゾーン「こども森の放送局」 ・アナウンサー体験、音響操作体験、原稿作成体験など ・地元学校と連携した職業教育・キャリア教育の場に ・録音した音声は「声のタイムカプセル」として保存可能 ③ 声のタイムカプセルプロジェクト ・家族、子どもたちの声を録音し、データ保管（希望者には記念ディスク発行） ・「50 年後の三芳町に残すメッセージ」として未来への手紙を音で残す ・町のアーカイブとして、未来の道の駅施設でも再生可能に ④ 猫のダヤンとつくる“50 年後の森”展示&参加型アート ・人気キャラクター「猫のダヤン」とコラボし、森づくりをテーマにしたアート展示 ・来場者が参加できる”未来の森”ビジョンづくりワークショップ ・子どもと家族、地域と一緒に描く”森の未来” ■ 期待される効果 ・三芳町の自然と文化を発するメディア拠点の形成 ・子どもたちのキャリア教育や地域参加の場の創出 ・観光資源としての体験型施設による集客効	原案のとおりとします。	企画提案をいただきありがとうございます。 今後、事業企画の検討においても具体的な検討を進めていくこととなりますので、ご提案内容も参考にさせていただきますながら検討して参ります。
--	--------------------	--

果 ・防災時の情報伝達手段としての活用 ・持続可能な地域づくりに対する住民意識の向上 ■ 実施パートナー（想定） ・地元 NPO や学校、教育委員会 ・ラジオ放送技術支援企業 ・猫のダヤン（わちふいーど）などキャラクターライセンス提供者 ・地域の農業団体や観光団体 以上、宜しくお願い致します。		
①「基本計画」（案）＝の中に「地域活性化」や「町全体の活性化」という表現が多用されていますが、「基本計画」が考えている「活性化」とはどのような中身なのでしょう。 当初の（案）＝第1回検討委員会では、三芳の農と食と産地直送をかけあわせること、情報発信、三芳町の魅力を感じる・味わう・体験する等が示されています。また、その後の「拠点の考え方」では、上富小学校の統廃合を事実上の前提として、「三芳スマート IC 隣接拠点」と「上富地域拠点」の機能分担をすすめるなかで「町の活性化に寄与していく」とされています。これとの関連で上富地域の高齢化問題にも言及し、「上富小学校を含む上富地域拠点は、上富地域の地域活性化につながる機能」と断定しています。果たしてそうでしょうか。高齢化率が約5割となっている地域にスマート IC 拠点と連携して「計画（案）」にあるようにインバウンドを含む、外部から人とモノが流入して果たして同地域は本当に活性化するのでしょうか。大きな疑問です。「計画（案）」には、その根拠が示されていません。 一般的に小学校は、その地域の生活と文化の中心となるものです。統廃合の答申が出されたからといっても議会で結論が出されたわけでもありません。むしろ統廃合が進められれば同地域の過疎化、高齢化はさらに進行するものと考えられます。統廃合しないで現在の小学校を残した上で、町の魅力をいかに作り上げ、発信していくか―「計画（案）」には、その視点が欠けていると思います。 さらに「活性化」についていえば、現存する農家の方々、とくにサツマイモ農家の後継者問題や、イモを含む地元産の野菜などを継続的に出荷できるか否かという問題も出て来ると思います。各地の「道の駅」を訪ねたことがあります。本当に地元のものを新鮮で安く売っているところは限られています。多くの所が他県のを、高い値段で販売しています。この点も含めて、今回の計画が本当に地元を活性化するのか、要検討だと考えます。	原案のとおりとします。	（仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 また、町民はもとより、より多くの人々が（仮称）地域活性化発信交流拠点に訪れ集いながら、三芳町を知り楽しんでいただき、再び来てもらうことで交流を深め、地域の活性化へとつながるような、持続性のある拠点づくりを目指すことが重要であると考えております。 （仮称）地域活性化発信交流拠点のコンセプトのとおり、「地域活性化」「発信」「交流」の3つのキーワードを軸に、利用者のニーズを取りこみながら、「三芳の食と農」など町の代表的な魅力の発信を通じて、来訪者との交流や地域の活力の創造に結びつくよう検討を進めてまいります。 基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。

②「計画（案）」は財政上もきわめて大きな問題を抱えていると思います。

概算事業費は、当初の（案）で約４５億～５０億円。その後の「分担型整備」でも２８億円～３０億円と示されています。しかも「実際の相場はこれ以上大きくなる」「機能の振り分けのみから試算した大まかな算出であるため今後詳細な検討を重ねる」とされています。現在でも全国的な資材の高騰や人手不足などで建設関係の仕事が深刻となるなかで、近い将来さえ見通しが立たない巨額の財政負担についてどのような展望を持っているのか、大いに疑問です。

先日テレビでも放映されていましたが、茨城県那珂市では２９億３０００万円で「道の駅」が計画されており、試算では年間９５万人が訪れ、そのうち地元の人が４割と紹介されていました。この根拠も定かではありませんが、今回わが町の「計画（案）」では、どれだけの人が利用し、利益はいくらぐらいになるのか等の見通しが見当たりません。そのことも含めて、想像もつかない財政負担を考えると、町の将来ひいては町民にとって具体的にどのような負担があるのか、大きな不安です。この点が明らかにされない限り、本計画は進めるべきではないと考えます。

③上記にも関連しますが、そもそもこれだけの大規模な事業費を伴う計画が、住民のなかに事前に明らかにされてこなかったことが問題です。「パブリックコメントを求めている」と言われるかもしれませんが、「計画（案）」の中にある利用ニーズ調査や周辺住民アンケート、農業者ヒアリング、子育て世代アンケートなどは、それぞれどれぐらいの規模で行われたものでしょうか。

現段階でも、これほど多額の事業費を要する「計画」だけに、住民負担やリスク等、様々な問題を想定した説明会やアンケート調査などを町民全体を対象として実施する必要があると考えます。

道の駅について
地域振興（どれだけの人が利用できるか、遠い、まして下り線）
子育て支援（どんな事）
物販（何を売ると、地元産あるの）
機能分担（上富小統廃合を町民は知らない、上富地域拠点として分散化するなんてお金の無駄使いでは）

なので「道の駅」づくりに反対します。
伝統農業の生きるまちづくりで発展させて下さい。
今、日々の生活をどうしのいで行くか頭を悩ましているのが現実。
町民の知らないところで着々と進行していく町民不在の政治はやめて下さい。

事業費については、今後検討が具体化されていく中でさらなる精査に努めたいと考えております。今後の整備手法の検討において町の支出の低減を追求し、具体的に検討を進めてまいります。

地域課題の解決を図りながら、地域全体の活性化に寄与する拠点施設となるよう検討を進めてまいります。

アンケートの規模については基本計画書 P27.28 の対象・サンプル数のとおりとなります。（１）Web アンケート調査において広く住民から、（２）～（５）の調査では特定の対象者からの意見を求める方法を取りました。今後につきましては、パブリック・コメントだけでなく、住民のみなさんからの意見を頂戴する機会を予定しておりますので、引き続き意見を取り入れながら整備計画の検討を進めていきたいと考えております。

原案のとおりとします。

（仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。

各導入機能についても慎重に検討を進めてまいります。

莫大な金額をかけ、それに見合った利益を生むことができるのか？ 最初はいいが、持続的に集客できるのか疑問に思う。 もっと違った形で活性化をできるのではないかとと思います。 子供や福祉に力とお金をかけ、若い人達にとって、住みやすく魅力ある町になってほしいと思います。	原案のとおりとします。	町の施策については総合的な視点での判断となります。 （仮称）地域活性化発信交流拠点、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 （仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。
現在、建設中の藤久保地域拠点施設整備等事業の事業費が膨らみ、更に増える可能性がありますと聞きます。また上富小学校の、跡地利用も資料にあります、正式に決まった訳でもないのに、進められようとして、不安があります。この大型事業は、もっと町民への周知と理解を得てから、お願いします。	原案のとおりとします。	基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 事業費については、今後の整備手法の検討において町の支出の低減を追求し、具体的に検討を進めてまいります。
○三芳町で長年教員として勤務してきた経験から、上富小学校の廃校について反対の立場で意見を述べます。 学校、特に小学校はできるだけ居住地に近いところにあるべきです。家と学校の通学路を含む地域こそ、子どもたちにとっての生活の場、遊びの場となります。普通に歩いて、周りの地形をよく理解することは、生きる力の源です。学校をわざわざ遠くに変えさせるメリットは感じられません。保護者にとっても、学校は近くにあるべきです。保護者でない、地域住民にとっても、子どもたちの成長してゆく様を身近にみることは大きな喜びです。学校は家の近くにあってこそ、地域の核ともなる場所だと考えます。 ○上富小は、大変歴史のある学校です。古くから地域住民に支えられて教育活動を展開してきました。長く小規模状態となっていますが、小規模故に児童理解、相互理解が深まり、ゆきとどいた教育環境に恵まれています。地域の活動が伝統的に学習活動に結びついています。地域の方も子どもたちを温かく見守ることが普通に行われてきました。そうした環境、歴史、風土も廃校となればすべて失われてしまいます。三芳町にとっても大きな損失だと考えます。 ○「世界農業遺産」に認定された上富地域。その中心的な位置に存在している上富小学校にこそ大きな価値があります。開拓から300有余年。今後も循環型農業を、東京に一	原案のとおりとします。	基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。

番近い町で50年、100年・・・と維持、継続、発展させていく地域です。 その地域から学校をなくしていいはずはありません。この地で子育てを行い、教育するために、この地に生まれて良かったと思う人を増やすために、コミュニティの中心に、上富小学校を残してほしいと強く願います。 ○子どもが大きく成長するのは、決して競争によるものではありません。切磋琢磨、と言葉では良い印象を受けますが、子どもが本当に伸びるのは、「自信」をもったときです。その自信は、「自分がしっかり認められる」という経験をして、初めて得られます。自分が、ありのままの自分でいいよ、と感じられ、認められることで次のステップに踏み出すエネルギーが生まれます。 切磋詰問、という競争原理は子どもが小さいときには導入しない方がいいと考えます。 ○三芳小学校、竹間沢小学校、唐沢小学校、藤久保小学校、どの学校においても、1クラスの人数は少人数にすべきです。学校規模は地域の住宅事情で異なりますが、どの子も生き生きと、のびのびと育つためにも少人数学級が必要です。 ○三芳町が今後も大きく発展するためにも、この町で長く暮らしたい、この町で子育てしたい、という事をアピールすべきではないでしょうか。緑豊かなこの町で、教育に力を入れている、ということが伝われば、人は集まります。そうしたときに、学校を潰してはいけません。人を増やすための施策をつくり、広くアピールしましょう。学校は統廃合ではなく、少人数学級で。残念ながら国の政策を待っていては実現できません。国に、県に先駆けて、「子育ての町・教育の町 三芳」を大きくアピールしていきましょう。		
道の駅の店舗を作っても、三芳サービスエリアを利用して、利用するとは限らない。以前あった店も閉店してなくなってしまう。新しい土地を購入してまでも開店する必要はない。 そして、上富小学校を廃校してその道の駅と称する店舗を構想している様だが、学校はあくまで廃校にしないで学校として残し、店舗を作るべきではない。 開発よりも町民の生活にかかわるものに税金を使ってもらいたい。	原案のとおりとします。	町の施策については総合的な視点での判断となります。 （仮称）地域活性化発信交流拠点は、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 （仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。

		いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。
①上富地区の住民は静かな生活が欲しい。この案の実行はより多くの大型車・普通車の通行量が増し、人及び自転車の通行が危険度を増す。通称「上富街道」も、春の新緑・秋の紅葉が最高。ケヤキ並木が少なくなり心配です。 ②上富小学校は避難場所です。避難場所は住民の家の近くにあるべきです。上富小学校の屋上には三富新田が見渡せます。上富小学校を無くすべきではない！ ③三芳スマートインターの上り線の出口は、バザールによって一休みが出来ない。休憩したい場合は三芳インターから出られず、所沢インターまで行くしかない（構造ミスでは）。道の駅は上り線同様、町民の利用には遠い！不必要です。 ④三芳スマートインターのサービスエリアにバザールがあり、この計画の施設は不要。住民より大企業が優先、福祉と介護に税金を使うべきです。 この案には「反対」です。	原案のとおりとします。	①（仮称）地域活性化発信交流拠点の検討を進めるにあたっては、ご指摘の課題の解決を図りながら進める必要があると考えております。 ②基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 ③フルインター化後の新たな出口から出て外部利用駐車場よりパサール三芳の利用も可能となっておりますのでご利用ください。 ④町の施策については総合的な視点での判断となります。 （仮称）地域活性化発信交流拠点は、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 （仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。
・道の駅建設に反対致します。 ・パサール三芳 外から買物したいのですが駐車場が狭く皆様利用できる様広い駐車場がほしいです。 ・箱物施設 いろいろ考えている様ですが少子化 若い人の負担増では？反対します。 ・子供のあそび場、楽しく遊べる公園がほしい （例→西交流センター近くの公園の様に!!）皆が利用しやすい場所考えてほしいです。 ・上富小学校廃止は反対します。是非残してほしい ・三芳は道路狭いけれどちょっと空き地があったら一休みベンチほしいです	原案のとおりとします。	パサール三芳は、NEXCO 東日本の施設となるため、要望があったことをお伝えさせていただきます。 町の施策については総合的な視点での判断となります。 （仮称）地域活性化発信交流拠点は、上位計画である三芳町第6次総合計画に重点プロジェクトとして位置付けられております。 （仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとしては、世界農業遺産に認定された伝統農法や、平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図ることであり、三芳町に必要な事業であると考えております。 基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校

		の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 ベンチの設置については道路交通課へのご意見として承ります。
①バス停の試行ステーションについて スーパー、公的機関出張所、病院等スペースの余裕あり且つ利用の多い場所にして頂きたい。 交渉はご苦労すると思いますが努力してください。 ②交流拠点基本計画については (1) 防災拠点を最重点にして町民の安全、福祉向上、健康増進に資する者に限って推進してほしいと思います。 (2) 老人が安心して生活できる施設の増設を熱望します。	原案のとおりとします。	①ご意見のとおり、拠点をより多くの人に利用してもらう目的として公共交通の充実は重要であると考えております。 三芳町地域公共交通計画との連携も図りながら、今後具体的な検討を進めてまいります。 ②町の施策については総合的な視点での判断となります。各機能についても、いただいたご意見を参考に、今後検討を進めてまいります。
上富地域拠点の中核である上富小学校が統廃合、三芳スマート IC 隣接、上富地域拠点に先に述べた 10 の機能を分担させる。 特に地域振興、子育て支援、農業、里山体験、レクリエーション機能を上富地域拠点で重視する「分担型整備」としている。 上富小学校の統廃合については議決がまだされておらず住民合意もなされていません。	原案のとおりとします。	基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和 7 年 2 月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。
①費用の問題 事業費が 40 億～50 億円、更に土地購入費。一体どれだけの金額になるのか。 藤久保地域拠点施設整備等事業が莫大な費用を要し、更に工事費等の高騰により、いくら掛かるか分からない状況の中で無謀過ぎるのでは。 そのような状況にもかかわらず、具体的な採算性、来場者数、市場調査などの精査が行われないままの建設ありきで進められていることは大問題と言わざるを得ない。 県内でも事業収支が問題となり計画見直しとなった松伏町や事実上とん挫したらしい越谷市の例もある。 多くの自治体が「うちも、うちも」と道の駅に手を出しているが、黒字を続けることはよっぽど経営努力が必要であり、立地条件も重要である。 計画を進める前に持続可能であるところの採算根拠をまず示すべきである。 ②また莫大な税金投入になるにもかかわらず、ほとんどの町民が知らないうちに計画が進められていることも大問題である。 藤久保拠点施設は無くてもならない施設だが、道の駅は無くても困らない施設である。	原案のとおりとします。	①事業費については、今後検討が具体化されていく中でさらなる精査に努めたいと考えております。今後の整備手法の検討において町の支出の低減を追求し、具体的に検討を進めてまいります。 ②今回のパブリック・コメントだけでなく、今後も意見を頂戴する機会を予定しておりますので、引き続きご意見を取り入れながら整備計画の検討を進めていきたいと考えております。

③上富小学校がまだ廃校と決まったわけではないのに、それを前提とした計画が出てきたことは驚きを禁じ得ない。 ④世界農業遺産、日本農業遺産に認定されたのに、農地を壊して開発というのも理解できない。		③基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 ④（仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとして、世界農業遺産に認定された伝統農法や平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図るものです。
1. 上富小学校廃校はまだ決まっていませんこの基本計画が上富小学校廃校が学校統廃合審議会で答申として出されるや否や出てきたのは何故でしょうか。上富小は審議会の答申が出されただけで、まだ廃校とは決まっておらず、廃校反対の声も多くあります。議決もしていないうちにこのような計画案を策定するのは議会軽視ではないでしょうか。また、上富小の小存続を望む住民の声があることを軽視するのでしょうか。学校統廃合の審議会は上富省の廃校ありきで進められていたきらいがそもそもありましたが、これでは道の駅計画の為に上富小を廃校にしようとしているのではないかと疑いたくもなります。 2. 世界農業遺産に認定された農地をつぶして作るのですか？ 「世界農業遺産に認定された三芳町の落ち葉堆肥農法」を売りに、「食と農」を基本コンセプトに掲げた道の駅でありながら、その世界農業遺産に認定された三富の畑をつぶして建設しようとしているのは問題です。建設計画予定地は耕作放棄地でも休耕地でも何でもなく、農家さんが大事に農作物を作る生きた畑です。町長ご自身、上富の農家さんであるのに、この矛盾をどうお考えなのでしょう。今回の計画に限ったことではありませんが、世界農業遺産認定を大々的にアピールし、農業の町を強調しながら企業誘致。そんなことなら日本農業遺産も世界農業遺産も返上した方がよろしいのではないかとすら思えます。計画地は全て「第一種農地」であり、「市街化調整区域」でかつ「農業振興地域内農用地区域」。更には「三富開拓地割遺跡」の「埋蔵文化財内蔵地域」です。大事な地割遺跡もある土地を壊していいのでしょうか。下がり続ける食料自給率、日本の農業の危機がこれだけ言われていて、それなのに生きた農地を勝手に計画地に決めてしま	原案のとおりとします。	基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。 いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。 （仮称）地域活性化発信交流拠点の果たすべき役割の一つとして、世界農業遺産に認定された伝統農法や平地林に代表される美しい武蔵野の景観、新鮮なみよし野菜などの三芳町が誇る魅力を最大限に活かしながら、地域資源の認知度の向上を図るものです。

うやり方には疑問です。今こそ世界農業遺産の名に恥ずかしくない農業政策を望みます。

3. 計画の中身

総花的であれもこれもで何を一番大事にしたいのか、何をしたいのか分かりません。あちこちの道の駅の「成功例」だけを持ってきてウチもやってみよう的な計画に思えます。道の駅は成功例なんてほんの一握りです。オープン当初は賑わっても 1 年も経てば閑古鳥、単なる「トイレ休場所」となってしまった例は枚挙に暇がありません。20mの展望台を建てるとか計画しているようですが、「埼玉県景観計画一般課題地域」にそのようなものを建てていいのでしょうか。景観破壊でないですか。農業遺産は観も含めたものと思います。三富の地割は上富小学校の屋上から見ることができます。それでいいではないですか。

4. 立地について

道の駅は国道とか幹線道路、あるいは観光地にあるものですが、三芳の道の駅料画地へのアクセスは町道のみですし、観光地ともいえません。三芳 IC・PA に隣接が売りになりますか？三芳は関越自動車道下り方面の最初の IC・PA です。これからお出かけしようという人が、関越に乗っていきなり最初の IC でわざわざ降りて道の駅に立ち寄るのでしょうか。「賑わいバザール」構想のときは、PA から「徒歩で」道の駅と行き来できるようネクスコとの協議といったことが書かれていましたが、今回もそのような計画なのでしょう。しかし、そんなこと可能なのか、そんな例あるがあるのか、ネクスコが許可するのか、甚だ疑問に感じます。

5. 三芳野菜

当然のことながら三芳町産野菜を売ることが計画しているのですが、そもそも三芳名産の「富の川越芋」は芋農家さんがそれぞれ直売をしていて、よそで売っているのを見ることはありません。町内のスーパーにもありません。サツマイモ以外の三芳野菜も地元各スーパーや町役場で売られていて、上り側の三芳 PA 内にある「食の駅」では三芳野菜はほとんど売っていません。関越道を下ってやって来るのか群馬野菜がメインばかりが目立ちます。道の駅をつくったところでそこで売られる三芳野菜がどれだけあるか疑問です。

6. 事業費は？

計画案にはきちんとした概算事業費の詳細がありません。40～50 億円というものすごくおおざっぱな数字が示されているのみです。人件費、資材費高騰の中でこんないい加減な数字でいいのでしょうか。国の補助金をあてにして、どんな補助金が見えるかというのをたくさん示していますが、そもそも不交付団

町民はもとより、より多くの人々が(仮称)地域活性化発信交流拠点に訪れ集いながら、三芳町を知り楽しんでいただき、再び来てもらうことで交流を深め、地域の活性化へとつながるような、持続性のある拠点づくりを目指すことが重要であると考えております。

三芳 PA に隣接した立地を活かし、長距離観光利用もターゲットとしておりますが、三芳 PA との連携も含め、今後、具体的な検討を進めてまいります。

物販・アンテナショップ機能は、地元農産物や農産物加工品等の販売を想定しております。今後、整備計画にて具体的に検討を進めてまいります。

事業費については、今後検討が具体化されていく中でさらなる精査に努めたいと考えております。今後の整備手法の検討において町の支出の低減を追求し、具体的に検討を進めてまいります。

体である三芳町に国からの補助金がどれだけ出るのでしょうか。収支シミュレーションもありません。どこかに委託して作ってもらった計画でしょうが、杜撰という言葉では足りなすぎます。計画は農地であるから上下水道もなく、インフラ整備というより新設から始めなければいけないわけですし、どれだけ金額がかさむのでしょうか。それだけ莫大な予算をつぎ込んだところで、繰り返しますが、わざわざ立ち寄るような立地になくて、誰がどう考えても最初のご祝儀人氣が終わったら速攻で閑古鳥大赤字になるのが目に見えています。

7. 住民の声、住民への周知

利用ニーズ調査として三芳 PA 利用者、周辺住民、農家、子育て世代へのアンケートやヒヤリングを実施したとあります。しかし、町がこの計画を鉄道の通っていない三芳町の「西の玄関口」と位置付けるのであれば、全住民を対象としたアンケートを先にやるべきでした。この計画白体をどれだけの住民が知っているのでしょうか。また、周知への努力を町はしたのでしょうか。今からでも全住民への周知とアンケートを行うべきです。

8. 町民おきぎりの計画を見直してください
以上のことから、この計画を今一度立ち止って見直し、改めて町民に問うていただきたいと思えます。

◆基本的に建設反対。無駄な施設である。建設ありきで計画されている感が内容からも伺える。

どうしても作るなら、もう少し計画を見直した方が良い。内容が中途半端である。そんなに流行るとは思えない。

◆ニーズの中に「観光・長距離利用で休憩機能を求める声が高い」とあるが、三芳 PA が隣にあるのにニーズが高いとは思えない。長距離移動で高速を利用者しない人がどれだけのいるのか。

◆計画書の中でしきりと気運が高まるとあるが、それほど町民が心待ちにしているのだろうか？

私の周りでこの計画を知っている人はいなかった。認知されていないのでは？

そのような状況で建設してしまうのは、いかなものだろうか？

◆地域住民のための施設とも謳っているが、どのような人を想定しているのか疑問である。

バス路線の無い町はずれの立地なので、車の無い人は利用出来ない。

地元の人と言ってもあまり民家の無い所なので地元の人も行きにくいし、地元は農家が多いので、農家の人が農業体験などやりに来ない。

ちょっとしたキッズスペースと広場がある位で、わざわざ遠くから子供を遊ばせに来るとは思えない。

これで地域住民に貢献出来る施設になるの

原案のとおりとします。

アンケート調査において広く住民からだけでなく、特定の対象者からも意見を求める方法を取りました。アンケートについては、限られた期間と方法で行ったものでありますが、いずれも住民意見であり、ニーズの聴取方法としては問題ないと考えております。今回のパブリック・コメントだけでなく、今後も住民のみなさんからの意見を頂戴する機会を予定しておりますので、引き続き意見を取り入れながら整備計画の検討を進めていきたいと考えております。

三芳 PA に近接した立地性や第3章でお示ししているニーズ調査結果から、ターゲットは「町民・周辺住民」「観光・長距離利用者」「子育て世代」を設定しています。関越自動車道等の道路利用者はターゲットとして重要であると考えております。

また、拠点をより多くの人に利用してもらう目的として公共交通の充実は重要であると考えております。

三芳町地域公共交通計画との連携も図りながら、今後具体的な検討を進めてまいります。

でしょうか？

◆入浴施設のニーズがあるとの事で、計画書にコインシャワーやサウナがあるが、長距離トラックの運転手をターゲットにしているのでしょうか？

そんな中途半端な入浴施設に普通の利用者はあまりいないのではないのでしょうか？

どのような利用や利用者を想定しているのですか？

◆町ならではの体験と言うが、どのような体験が出来るのか不明。

計画書に農業・里山体験など謳っているが、施設図の中にそのような体験が出来そうな場所が見当たらない。

実際の畑でやっている芋掘り体験などの方がよほど良い体験になるのではないのでしょうか？

◆計画書の中に上富小学校を活用するとあるが、現在通っている子ども達を追い出してまで作る必要があるのだろうか？

三芳 PA のそばの施設に上富小学校のプランを合わせれば良いのではないだろうか？

子どもにやさしい町づくりや子どもの権利とかはどこに行ってしまったのでしょうか？

学校の無いような所に新たに住む人はいません。地域の活性化は商業的に良ければ良いのでしょうか？

人口減少対策や SDGs にも逆行していると思います。

温浴施設は、レクリエーション機能の一つとして捉えております。主に観光・長距離利用者を想定してお示ししております。

各機能について、今後いただいたご意見を参考に、検討を進めてまいります。

基本計画に掲載している機能分担の検討案は、令和7年2月の三芳町学校再編等審議会の答申を受け、上富地域拠点の現状を踏まえた地域活性化発信交流拠点のあり方として、上富小学校の敷地の有効活用を図る観点から、スマート IC 隣接拠点と上富地域拠点双方で機能を分担する案として示したものです。

いただいたご意見を参考に、上富小学校の学校再編については、慎重に検討を進めてまいります。

町民はもとより、より多くの人々が(仮称)地域活性化発信交流拠点に訪れ集いながら、三芳町を知り楽しんでいただき、再び来てもらうことで交流を深め、地域の活性化へとつながるような、持続性のある拠点づくりを目指すことが重要であると考えております。